

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立神野小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・校内研究教科「算数科」を中心に授業改善に努め、県学習状況調査や児童の実態調査からも学力が着実に向上している。問題事案も少なく、落ち着いた生活を過ごせている。しかし、昨年度は教育相談的な問題を抱え、不登校傾向や授業中トラブルが起きてしまうケースも増えてきており、教育相談週間等を活用し、児童理解を深め、組織としてしっかり対応することを考えている。また、昨年度はコロナ禍の影響で地域の力を十分に活用しできなかった。今年度は、地域を活用した新しい取り組みを始め、心豊かな、地域を愛する児童を育てることも進めていきたい。
---------------	---

2 学校教育目標	夢をもち 心豊かに たくましく生きる 神野っ子の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	①魅力ある学級運営、協働体制に基づく学級経営力の向上②学力向上の取り組み③特別支援教育の充実④教育相談の充実⑤人権・同和教育の推進⑥神野地域との連携推進⑦幼保小連携・小中連携、家庭教育の活性化⑧食育・健康教育の充実⑨学校における働き方改革
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				学校関係者評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価 達成度 (評価)	学校関係者評価			
					実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・問題解決型または探求型の学習過程の在り方を全職員で共通理解し、ノート指導や学習のきまりの指導の徹底を図る。	A	・ノート指導や学習の流れについて昨年度から継続した指導をすることができた。校内研で3つの専門部を設けることで目標等を意識して取り組むことができた。	A	・授業の様子等、落ち着いて学習に取り組んでいる。	研究主任
	○校内研究教科、算数科の「ともだちタイム」を核とした授業づくり	○算数科「ともだちタイム」の在り方を全職員で共通理解し100パーセントの実践を行う。	・算数科「ともだちタイム」での低・中・高での目指す子ども像やそのための手立てを明確にし、授業研究会で、指導力向上に努める。	A	・算数科での「ともだちタイム」は、コロナ感染予防対策をした上で実施することができた。指導力向上のために行った授業研究会で「ともだちタイム」について共通理解でき、学力向上につながった。	A	・児童が進んで授業に参加し、発言する姿がたくさん見られる。発言の内容もはっきりしており、友達との交流がしっかりできている。先生たちが授業の工夫をされており関心した。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童理解を深める取り組み(教育相談週間の設定と100%の実施) ○ふれあい道徳として、道徳の授業を全学級で公開する。	・教育相談週間を設定し、児童一人一人の状況を把握し、「心の居場所づくり」と「絆づくり」に努める。 ・フリー参観デーで道徳授業を公開し、家庭・地域と心の教育の連携を強める。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施	B	・6月と11月に、Q-Uテストの実施と教育相談を行った。児童一人一人の状況把握ができた。 ・家庭や地域に向けて、道徳授業の公開ができず、心の教育における連携が不十分だった。 ・道徳科の授業づくりに関する研修が、実践的な内容で授業の充実につながった。	B	・時間を設定し、一人ひとりの児童から相談を受ける教育相談習慣の取り組みは、今後も継続してほしい。集団の中では話せない児童も、個別に聞いてあげることで安心して相談できると思われる。	道徳主任 教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見と迅速かつ確実な対策組織の構築・推進、対策後の職員間の共通理解を必ず行う。	・アンケート等で問題事案を覚知した場合は、早急にチームで対応する。正確に事実確認をし、話し合いの場を設け、早期解決を図る。	A	・毎月の「心のアンケート」と学校生活アンケート(2回)が効果的であった。把握後は、事案に対して担任を中心に迅速な対応を行い、いじめの早期解決、状況の悪化の防止につなげることができた。	A	・毎月、心のアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を心掛けていることがありがたい。重篤ないじめが起きていないのは、日頃の取り組みの成果だと思われる。今後は、児童が安心して本音を書ける環境を工夫してほしい。	教育相談
●健康・体づくり	○特別支援教育の推進	○特学担任が中心となるチームの支援体制を整え、月一回の支援の実態把握を行う。	・児童一人ひとりのニーズに応じた集団での学びと個別の学びの充実を図り、社会的自立に向けた指導・支援を行う。	A	・通常学級在籍の個別の支援を要する児童を含め、対象となる児童の成長や変化に応じて、常に支援体制を柔軟に変化させながら対応することで、効果的な支援につなげることができた。	A	・様々な実態の児童に、適切な指導を行うことは、大変難しいと思われるが、一人ひとりの児童が安心して学ぶ環境を整えられよう、組織的な取り組みを進めていきたい。	特別支援コーディネーター
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の働き方についての職員研修	・働き方について、民間に学ぶ研修等を行う。 ○金曜日の定時退勤するための取り組みを行う。	A	・長期休業中等に「働き方」について考える研修を行う。 ・業務を見直し、重要度にあわせて取組の優先順位をつけたり、業務終了時刻を設定したりして、定時退勤を促進する。	B	・様々な職場で業務改善、働き方改革の取り組みが進められており、先進的な取り組みを参考にして取り入れてはどうか。 ・学校評価アンケートや心のアンケートをWEB回答方式にしたことは評価できる取り組みだ。今後、ICTを活用した取り組みを推進してほしい。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				学校関係者評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価 達成度 (評価)	学校関係者評価			
					実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	◎地域連携を効率的・効果的に推進し、地域の良さを知り、進んで地域に関わりとする気持ちを育む教育活動の推進	○地域と関わる行事等について、年度当初に精選し、各学年主任を中心に1学期当初には明らかにし、地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整える。 ○地域の良さを知り、その良さを実感する児童を80%以上にする。	・各教科並びに総合学習において、地域の人・物・事と密接に関連のある単元を1学期当初には明らかにし、地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整える。 ・公民館や地域団体と連携し、児童が地域行事等に進んで参画しやすい環境を整える。	B	・コロナ禍にあり、予定していた学校・地域を含めた交流活動を実施することが難しかった。 ・来年度は、ぜひ人・物・事の地域と密接に関連のある単元を積極的にいえる環境が整うことを願っている。 ・コロナ禍にあっても実践できる交流の在り方を検討していきたい必要がある。	B	・地域としても子どもたちが進んで参加できる行事を実施してあげたいが、コロナ禍の中では、健康と命を守ることでも大切なことである。 ・神野は、学校と町の一体感があり、コロナ感染の状況が改善されたら、学校と公民館、地域が連携して取り組みを推進していきたい。	教頭 主幹教諭
○危機管理体制の強化	○未然防止対策を基点とした報告・連絡・相談体制の確立と組織対応力の向上	○生徒指導部と教育相談部、養護教諭との連携を強化し、いじめをはじめとする報告・連絡・相談体制のさらなる強化を図る。	・同学年の連絡と安全指導・生徒指導主任・教育相談部と学年担当との連絡を密にし、問題事案についてチームで確実に対応し、効果的な指導を行う。	A	・管理職・生徒指導担当・学年主任等が連携を図り、課題解決を図ることができた。 ・次年度は、組織的な対応を強化するために、校内組織の見直しに取り組み改善を図っていききたい。	A	・子供たちが安全・安心に生活できる環境を地域と学校が連携して作り出すことが大切である。防災対策や危機管理に適切に取り組んでいただいている。	教頭

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・コロナウイルス感染防止に家庭と連携を図り取り組んできたことで、学年・学級閉鎖等をすることなく学校を運営することができた。しかし、学校行事等の実施にあたっては、中止や延期等の対応が必要な活動もあった。次年度は、コロナ感染防止に配慮しながらもICTを活用したり取り組み方法を工夫したりする等の方策を取り、実践できる教育活動の幅を広げていきたい。また、地域連携を推進し、開かれた学校づくりに取り組み、心豊かな、地域を愛する児童を育てていきたい。 ・校内研究教科「算数科」を中心に授業改善、学力向上に努め、全国学習状況調査や県学習状況調査では、県平均を大きく上回る結果が得られた。児童の行動等に関する事案は少なく、児童は落ち着いた生活できている。しかし、不登校傾向の児童が増加傾向にあり、次年度は組織的な対応ができる教育相談体制の整備と共に、他の関係機関との連携を深め改善を図っていききたい。今年度は、通学路で児童の交通事故が発生した。事故防止に向けて、児童への安全指導を強化し、地域とも連携して児童の安全を守るための対策を進めていきたい。
----------------	--